

令和7年度 四賀アイ・アイ 地域連携推進会議 議事録

1. 開催日時 令和8年3月30日(月) 午前10時00分～午前11時30分

2. 開催場所 四賀アイ・アイ

3. 出席者

利用者	1名	四賀アイ・アイ入所者 1名欠席
利用者ご家族	1名	家族会会長
地域の関係者 福祉に知見のある人 経営に知見のある人	1名	NPO 法人峠茶屋 理事長
事業所職員	2名	四賀アイ・アイ管理者、法人事務長 サービス管理責任者(欠席)

4. 議題

- (1) 地域連携推進会議について
- (2) 四賀アイ・アイの紹介
- (3) 地域との連携・交流
- (4) サービスの利用の状況
- (5) 利用者理解と安心安全の視点から
- (6) 職員の人材確保・育成・研修等について
- (7) 利用者の権利擁護について
- (8) 事業所の見学

5. 議事の経過

(1) 地域連携推進会議について

四賀アイ・アイ管理者より、会議の趣旨、構成員の役割等について説明する(別紙資料)。

(2) 法人及び四賀アイ・アイの紹介

四賀アイ・アイ管理者より、法人設立の経緯、四賀アイ・アイ開設の経緯、令和8年度事業計画、利用者および職員の状況等について説明する(別紙資料)。

(3) 地域との連携・交流

四賀アイ・アイ管理者より、地域との交流内容等について説明する(別紙資料)。

(4) サービスの利用の状況

四賀アイ・アイ管理者より、一日の生活の流れ、活動内容、健康状態を含めた今後の課題等について説明する(別紙資料)。

(5) 利用者理解と安心安全の視点から

四賀アイ・アイ管理者より、BCPの策定状況、意思決定支援へ向けてのスキルアップ、感染症対策、安全衛生委員会の開催状況等について説明する(別紙資料1)。

(6) 職員の人材確保・育成・研修等について

四賀アイ・アイ管理者より、人材確保の課題、法人での研修内容等について説

明する（別紙資料）。

(7) 利用者の権利擁護について

四賀アイ・アイ管理者より、虐待防止研修の実施状況、倫理委員会の開催状況等について説明する（別紙資料）。

(8) 事業所の見学

出席者の方々に、四賀アイ・アイ館内を見学していただく。

6. 意見交換・質疑応答

管理者	四賀アイ・アイの生活はどうですか？何かお願いしたいことはありますか（利用者への質問）？
利用者	もっと旅行をしたい。ホテルに泊まりたい。 御飯がおいしくないなので、外食をもっとしたい。 職員が話を聞いてくれない。 GHの体験をしてみたい。
峠茶屋理事長	近隣に四賀アイ・アイと同じような事業所はありますか？サービスの選択肢はどれくらいあるのか？
管理者	知的障がい者の入所施設は、松本圏域で4施設、児童の入所施設は1施設しかない。入所については、選択肢が少ない。一方で、グループホームや就労系の事業所は、民間の参入もあり、数が増えている。
家族会会長	周りのご家族に話を聞くと、ショートステイの受入施設が少なく、困っているという話を聞く。
管理者	職員数の問題や、経営上の問題から、地域のニーズに答えられていない現状がある。当法人としてどこまでサービスを提供できるのか課題は多い。

(1) 地域連携推進会議について

- 地域の中の入所として、透明性且つ地域に理解される運営を目指す為
- 支えられながらも、できることを支える相互の関係作り（地域連携）を目指す為

- ①利用者及びその家族、地域住民の代表者、社会福祉について知見を有する者並びに市町村担当者等により構成される地域連携推進会議を開催し、概ね1年に1回以上、運営状況を報告するとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設ける。
 - ②会議開催の他、概ね1年に1回以上、会議の構成員が事業所を見学する機会の設置。
 - ③①の報告、要望、助言等についての記録を作成し、これを公表する。
- <上記規定は、令和6年度から努力義務化、令和7年度からは義務化>

(2) 法人及び四賀アイ・アイの紹介

①法人設立 平成4年

【法人理念（スローガン）】

人と人がめぐり会い、愛と愛とが出逢うとこ
～共に楽しみ、共に生きる～

<令和8年度 信濃友愛会事業計画／法人パンフ 参照>

②平成5年5月開設 定員50名の入所みの開設 開設32年

i 当時の背景

ii 現状 ←地域の要望から通所の受け入れ／地域移行の流れ

○施設入所支援 35名 → 状況で増員を検討

○生活介護 50名 → 入所＋通所の日中の活動
日中地域の事業所に通所する方

<令和8年度 四賀アイ・アイ事業計画 参照>

iii 利用者状況 ○施設入所支援 女性18名 男性18名
平均年齢約50歳 区分4(7)・5(8)・6(21)
障がい区分の認定と障害特性・生活自立
松本圏域中心に諏訪圏域・長野圏域の出身者
車椅子3（他に一部利用者あり）・通常食以外8

○生活介護の通所の方 合計 16 名 →若干名の増員必須
グループホームから 男性 4 名・女性 1 名
(寒梅 1 名/よつば 4 名)
在宅から 男性 9 名・女性 2 名

週 1 ~ 2 日、月 2 日程度の方、掛け持ちの方
ご家族の送迎/送迎車を 2 台出動

生坂・穂高・豊科・松本 (南部は寿台)・筑北、等

○日中は入所と通所の混在型で活動のメリット/デメリット
○療育手帳・身障手帳・精神手帳、てんかん、諸疾患 等

iv 職員状況 ○法人 正・準 41 名、パート 11 名、登録 16 名
○四賀アイ・アイ パート 2/支援員 18/サビ管 1/管理者 1
看護師 2 (現 1 欠)/事務 3/栄養士 1
掃除・洗濯・送迎・外作業 5
(厨房は委託業者との契約)

(3) 地域との連携・交流

○四賀アイ・アイの成り立ちは、利用者・家族の幸せと地域の連携・活性も
○3 障害+難病の受入拡大、地域への福祉啓蒙の取り組み
○障がいの理解について (知的障がいのある方・障害特性と個性の理解)

(4) サービス利用の状況

○生活の流れ (主な日課表参照)
○活動 : 散歩、園内散歩、ドライブ、アート (絵画・貼り絵・塗り絵、創作)、
季節行事各種、ビデオ、カラオケ、外作業、資源物、個別外出、等々
入浴、整容 (爪等衛生・散髪)、医療受診、館内居室清掃、洗濯たたみ、等

※サービス等利用計画 → 個別支援計画 ≠ 個別活動や外出 職員体制歯がゆさ
※アートの文化的活動の継承の難しさ

○夜間・休日の充実

○帰省 毎週末 2 ~ 10 名位の帰省 家族状況の課題と事業所送迎工夫

○今後の健康 (利用者・ご家族)・医療行為・看取り… 課題は多い

(5) **利用者理解と安心安全の視点から**

○BCP（業務継続計画）の策定からより現実的な設定・対策へ

・地震：四賀の孤立　・倒木等：停電　・避難訓練&BCP訓練

○地域移行への利用者の意思決定支援のすすめ

・利用者（知的障がいのある方）への職員のスキルアップと地域理解

○感染症対策

※この5年間の利用者・職員への負担・疲弊／臨時出費の打撃

・2月末～3月　インフルエンザB型の居室対応があった

高齢ダウン症の利用者の認知低下がみられた

・今後の対策を練りつつも過剰な対応がない通常生活へ

(6) **職員の人材確保・育成・研修**

○アウトプット／インプットの研修に若手の積極的な参加

○内部研修の充実→自分達でやりたい（必要な）研修を考える

○広いハラスメントの知識と対応の理解を図る

○話し合う・語り合う場面の設定を増やす

(7) **利用者の権利擁護について**

○虐待防止研修の実施状況：2回実施　法人職員全体研修及び長野県研修等

○倫理委員会・安全衛生委員会及び幹部会：月1回実施

倫理委員会の内容：虐待防止、身体拘束に係る事項

安全衛生委員会の内容：事故報告（ヒヤリハット）、感染症対策・対応に関する事項

幹部会に内容：検討事項、確認事項、各事業所からの報告事項　その他

○キーワード　・自分を知る　・ハラスメント　・アンガーマネジメント

(8) **事業所見学（状況説明）**